

謹賀新年

あけましておめでとつございます。

市民の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えることとお慶び申し上げます。旧年中は、日頃より市政へのご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。

昨年は、年初めの福井豪雪に始まり、7月の西日本豪雨や大阪府北部地震、北海道胆振東部地震など、各地で痛ましい災害が起りました。幸い鳥羽市は、災害による大きな被害は無かったものの、相次ぐ台風による避難準備情報の発令や停電への対応もあり、災害への備えは終わりのない取り組みであることをあらためて認識したところです。

また、今年4月に天皇陛下がご退位され、皇太子さまの新天皇ご即位により新しい時代を迎えることや、10月には消費税の増税が予定されていることなど、我々市民にとっても大きな節目の年となりそうです。

さて、昨年は前市長時代から4年ぶりとなる地区懇談会を開催し、各地区を廻らせていただくなかで市民の皆様から様々なご意見をお聞きすることができました。人口が減り続けている問題、獣害の被害、南海トラフ地震への備えなど、社会課題が山積しています。それらに精一杯抗うと同時に、嘆いたり不安になるばかりでなく、そんな中でも幸福感を高められるよう、

ある意味、順応していくことも大切なことだと感じています。

そのようななか、今年度は「未来への芽吹き予算」としてハード事業・ソフト事業とも第一段階の進捗でしたが、新年度は更に推進していきます。具体的には、鳥羽中央公園再整備の一環である市民体育館サブアリーナ建設や、新しい消防庁舎の建設工事が始まります。また、これまでアナログ方式であった防災行政無線を数年かけてデジタル化することや、市水産研究所を移転新築し、全国でも先進的な海藻の研究施設として整備する予定です。ソフト事業につきましても、移住定住の推進やと

ばびと活躍プロジェクト、海の博物館を活用した海女文化の発信、観光振興策などを進めていく所存です。今後も市を取り巻く環境は大変厳しいものと予想されますが、地域の課題を市民の皆様と共に解決することで幸福実感を実現出来るまちづくりを全力で取り組んでまいります。引き続き皆様方のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年が市民の皆様にとりまして、夢と希望に満ちた一年になりますよう心からお祈り申し上げます、新年のあいさつといたします。



鳥羽市長
申村 欣一郎

新年、あけましておめでとうございます。
年頭にあたり、鳥羽市議会を代表して謹んで新年
のご挨拶を申し上げます。

市民の皆様におかれましては、新しい年を健やかに迎えられたこととお慶び申し上げますとともに、日頃から、市議会の活動に対し、ご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、様々な議会活動を実施してまいりましたが、特筆すべきことは、議会活力度が全国でも上位に位置づけされたことでもあります。

日本経済新聞社が発行する地方創生・地域経営の専門誌の「日経グローバル」は、全国の市区議会を対象に公開度や住民参加、議会運営等についての議会活力度調査を行っております。10月15日に発行された日経グローバルにおいて、議会活力度ランキングとして本市は、全国の815市区議会の中で第20位という結果が掲載されました。このような小さな市ではありますが、各議員の総力により全国の中で上位に位置づけされたことは大変嬉しいことであり、今後の議員活動においても鋭意努力しなければならぬと決意する次第であります。

新たな年を迎えまして、本年も更なる議会力の向上を目指してまいりたいと思ひますし、市民に開かれた議会、見える議会を進める観点からも市議会報の一層の充実を図るとともに、ケーブルテレビやSNSを活用した情報発信にも努力してまいりたいと考えております。

また、現在取り組んでおりますTOBAミライトークでは、市民の皆さんからの声を伺っております。その声の中から観光に力をとということ、先進的な取り組みを行っております高山市を視察し、委員会議論を行ったり、その他、生活に密着したご意見なども一般質問で取り上げるなど、市民の皆さんの声を活かさせていただいております。

今後身より身近な議会となるよう、その役割を十分に果たしてまいりたいと思ひますので、ご理解とご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

本年が市民の皆様にとって、希望に満ち溢れた最良の年となることを心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

鳥羽市議会 議長

浜口 一利

